

「ほやねさん」とは… つらいときや悩んだとき、そっと寄り添って「ほやね、ほやね」と話を聞いて、心を支えてくれる人

近くの交差点には下校時間になると、蛍光色のベストを着た交通ボランティアの方々がいつも立って、見守り活動をしてくださっています。子どもたちは毎日出会うので、親しみを込めた笑顔であいさつをして、横断歩道を渡っていきます。雨の日も冬の寒い日も見守ってくださる毎日は、どんなに大変なことかと思えます。

私は二十年ほど前、家族の一人を交通事故で亡くしています。横断歩道を渡っているときに、信号を守っていたにもかかわらず、前方不注意の車にはねられてしまったのです。それ故に、交通ボランティアの方々の横を車で通るとき、心の中で「ありがとう」を繰り返しながら通ります。子どもが元気で帰ってくる。これ以上の幸せはありません。子どもたちにとって、まさに大事な大事な「ほやねさん」です。交通ボランティアの皆様、どうぞ健康にも安全にもお気を付けてください。わが子が小学生のころ、何度も言って聞かせた言葉があります。

「青信号でも車は来るよ」。



募集

あなたがこれまでに出会ったほやねさんを400字程度の紹介文と一緒にお願いします。

応募方法

住所・氏名またはペンネーム・電話番号を明記し、直接または郵送、Eメールでまちづくり推進課へ。
〒509-5192 (住所不要)
✉ machisui@city.toki.lg.jp
☎ (内線312) / FAX ☎ 7763



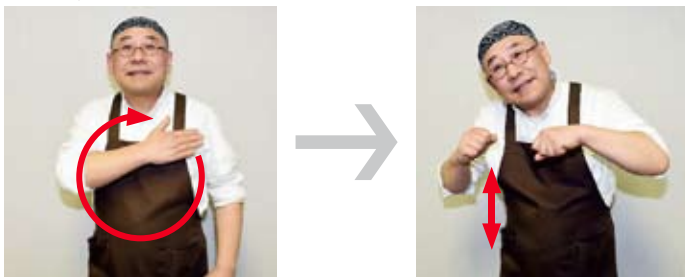
ようこそ手話の世界へ

福祉課 (内線217)



かんたん手話講座 手話で話そう！

元気ですか？



手を胸の前で回して両手を握って上下する

頑張ってください



ガッツポーズをする

ろう者が生活で

困ること【仕事】

多くのろう者は、一般の会社勤めをしています。仕事の内容を理解すれば、問題なく働くことができます。しかし、聞こえないことが原因でトラブルが生じることも多々あります。

例えば、誤作動であったにせよ非常ベルが鳴ったときに皆が避難している事に気づけず、ひとり取り残されてしまったり、上司の口話(ろう者

は口の形で言葉がある程度読み取ります)では「コピー」だったものを、「ゴミ」と読み間違えてしまったりと、さまざまです。

ろう者にとって一番トラブルになりやすいのは、人間関係です。孤独や誤解(自分を指さして笑われていると思ったり悪口を言われていると思ったりなど)から退職してしまう場合もあります。挨拶など手話で話しかけてもらうことで、ろう者はとても安心できます。